安全広報誌

安衛委　Ｎｏ１１０
平成２３年１月１０日
安全衛生推進委員会

年頭挨拶

あけましておめでとうございます平成二十三年を迎えましたが、今年の三月までは平成二十二年度であり、現在行っている工事は年度内工期のため、工期内完成を目指して頑張っていただきたい。

これから小寒に入り寒さもますます厳しくなり、健康管理には十分注意をして、風邪（インフルエンザ）など引かないように、また、降雪や路面凍結などで、足元が滑りやすくなってきますから、転倒等での怪我をしないようにしていただきたい。

工事現場で災害や事故などがあると今後の工事受注に影響を及ぼし新年度に向けての受注ができなくなりますから、安全対策を怠らず、早期完成を目指していただきたい。

飲酒運転交通死増

県警によると、昨年一年間に県内で起きた飲酒運転による交通事故の死者は十人で前年より七人増えたことがわかった。飲酒運転による交通事故の発生件数は、百十八件で前年より十五件の増、傷者は百四十三人で五人増加している。飲酒運転に対する規範意識が低下しているとみている。

年末年始での飲酒運転による事故は、全国で五十四件減の六十三件で死者はなかった。

平成二十三年の県内の交通事故死者は百五人以下に、そのうち高齢者の死者は五十人以下に抑えると県警本部長が年頭挨拶で数値を示しているため、より一層の取り締まりが予想されますので、十分に事故違反等を起こさないようにしてください。

インフルエンザに注意

インフルエンザにかからないためにはうがい、手洗い、洗顔で付着したウイルスを落とすため、順序としては、まず手洗い、洗顔、最後にうがいをしてウイルスを落としてください。手に付着したウイルスを口や鼻にもってこないことが大切です。ウイルスは乾いた環境下で増殖しやすいため、手洗いや洗顔の後は水気をしっかり拭き取ってください。気化熱で体温を奪われて、風邪を引く原因となります。

各現場での安全対策又はヒヤリ体験談

今回は地域活力基盤創造工事（国道二八八号）担当の樽井工事部長です。

この工事は、国道二八八号の都路町岩井沢地内で既設の舗装面を切削し、路盤部を予備破砕し、セメント及びアスファルト乳剤をスタビライザーにて、厚さ三十センチ混合して再生路盤を構築し、その上にアスファルト舗装を施す工事です。

国道二八八号は、常葉町を過ぎるとスピード違反の取り締まり等は殆どなくなるので都路町の当現場付近は、通行車両が一番スピードを出す地点に位置しています。現場事務所の地主宅を朝一番に訪問したら、その家の人が家の前で事故に遭いその日は会うことができませんでした。

今回施工する位置は直線部分が多いのですが、規制する場所はカーブになっていて見通しが悪いため日々施工位置が変化してゆく中で規制位置をカーブの近くを避けて見通しの良い位置に設定し通行車両の規制時における追突事故を避けるように、規制位置について工夫しました。

切削作業時や路盤混合作業時は大型の作業機械や大型ダンプトラックが片側車線幅いっぱいになって作業するので、大型ダンプトラックの入れ替えや、作業員が通行車線を横断時等は、見通しが悪く危険なので誘導員を施工位置にも配置して作業員や工事車両と一般車両との接触事故防止をするようにしていたのですが始めのころに、何度かヒヤリとするような場面がありました。一瞬の気の緩みが重大に事故にも繋がりますから全員で安全の確保をしなくてはならないと思いました。予備破砕工の終了時に路盤を保護するため、アスファルト乳剤を散布し蒔き砂をして一般車両への乳剤付着を予防したのですが、車両の下部に付着したと一部の方より苦情がきました。原因としては、乳剤散布の時期が夕方で温度が低いため蒔き砂の厚さをもう少し多めにしていれば予防できたのではないかと思います。